

## 平成27年度 第4回 諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議

開催日時	平成27年10月27日（火） 14：00～16：00
開催場所	諏訪市役所第1委員会室
出席者	<p><b>【諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員】</b>  中嶋博美委員、宮坂友子委員、岩波寿亮委員、今井高志委員、坂内陽子委員、平尾毅委員、藤沢晃委員、林直樹委員、山崎三千代委員、佐久秀幸委員、金子ゆかり委員</p> <p><b>【諏訪市まち・ひと・しごと創生本部】</b>  平林隆夫副市長、小島雅則教育長、関基総務部長、河西秀樹企画部長、伊藤幸彦市民部長、土田雅春健康福祉部長、飯塚隆志経済部長、竹内桂建設部長、湯沢広充会計管理者、宮下隆水道局長、高見俊樹教育次長、松崎寛議会議事局長</p> <p><b>【事務局】</b>  木島清彦企画調整課長、前田孝之企画調整係長、河西俊明企画調整係主査、牛山智哉企画調整係主査、小松智恵企画調整係主任</p>
<b>【次第】</b>	
1 開会 2 市長挨拶 3 協議事項 (1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本コンセプト（案）について (2) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について 4 意見交換 5 その他 6 閉会	
1 開会 河西企画部長より開会宣言があった。 なお、柳澤委員、宮坂勝太委員、青山委員、牛山委員が都合により欠席となった。	
2 市長挨拶 （金子市長） 皆様こんにちは。大変お忙しい中、第4回目の諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議にお集まりいただき感謝申し上げます。過去3回実施してきたが、その間、様々な提言をいただいた。4回目の会議の目的だが、総合戦略の基本コンセプト（案）を審議していただく。また、諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案についても意見をいただきたい。前回まで皆様に審議いただいた人口ビジョン、まち・ひと・しごと総合戦略骨子に基づいて作成したものである。諏訪市として、また諏訪地域として、これから人を呼び込み、まちの魅力を創造し、この地域の活力を維持し、また高めていくために、住民一人ひとりがその暮らしを充実していくこと、まち・ひと・しごとの創生を進めるこのまち、地域の魅力増進のための施策を盛り込みたいと考えている。本日もよろしくお願ひしたい。 （河西企画部長） それでは、会議の進行について、会議の会長である金子市長にお願いしたい。 （金子会長） 協議事項に先立ち、定足数の確認について事務局より報告をお願いしたい。	

(事務局)

委員数 15 名中、本日出席委員が 11 名で半数以上の出席となり、定足数に達していることを報告する。

(金子会長)

今回初めて出席いただいた国土交通省北陸信越運輸局、観光部観光地域振興課の課長補佐である坂内委員に挨拶をお願いしたい。

坂内委員より挨拶があった。

### 3 協議事項

(金子会長)

それでは早速、協議事項の説明に入りたい。「(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本コンセプト(案)について」、諏訪市長として私から説明したい。

協議事項(1)について、資料 No.1 に沿って金子会長から説明があった。

(金子会長)

これについて質問を受けたい。また、意見や忌憚のない感想も述べていただきたい。前回の会議録はお手元の資料の最終に添付されているが、総花的な戦略では魅力が減ってしまうということで指摘をいただいていた。A 委員はどうか。

(A 委員)

今回、「ものづくり」を核にした、ひとつづくり、まちづくりという形での展開が見えてきたと思う。ただ、ものづくりと言うと広い範囲となる。前回も話があったと思うが、東京から優秀な若者を呼び戻そうと思ったときに、従来型のものづくりで本当に学生が満足して戻って来るかどうか。魅力あるものづくりとは何なのかということをしてできればプラスアルファで盛り込みメッセージに込められると、この地に戻ってチャレンジしたいという学生や若者が集まることにつながるのではないかと。「ものづくり」が示すものが抽象的であると感じている。

(金子会長)

その点については、部内でも議論がある。ものづくりという言葉自体が大分使い古されてきた感もあるということもあり、何か提言があればいただきたいと思う。

(B 委員)

移住相談センターという話があるが、これはどこが担当するようになるのか。

(金子会長)

長野県、6 市町村、長野県宅地建物取引業協会諏訪支部が連携して取り組むことになる。

(B 委員)

6 市町村がそれぞれにやるのか。

(金子会長)

共同で取り組むことになる。

(B 委員)

広域でどこかが中心になって担当するということか。

(金子会長)

6 市町村が共同して東京や名古屋などの都会に住む移住希望者を対象として、移住の情報を一元的にアクセスして情報が取れるという仕組みを作ろうというもの。

(B 委員)

移住相談センターができるということだが、諏訪市に移住したい人が相談に来る場所を諏訪広域の中に、例えば、諏訪市役所や茅野市役所につくれば諏訪広域全体の話ができる。一元化とはそういうことかと思っていたが。

(金子会長)

そのとおり。楽園信州移住相談センター諏訪支部というのを設置するというので、インターネットでの情報発信も行う。補足を事務局からお願いしたい。

(事務局)

それぞれの市町村でも移住の相談などを行い、様々なイベントに取り組んでいるが、諏訪地域においては6市町村で共同して、要するにワンストップの窓口を設置するというので、宅建協会諏訪支部、6市町村が協力をする。これから詳細を詰めていくことになるが、相談員を雇用して、その人を中心に窓口とする。そこで諏訪地域の移住については相談を受けて内容を聞く。例えば、仕事の相談なのか、住む場所の相談なのか、住む場所ならどこに住みたいのか話を聞き、諏訪市のことは諏訪市につなぐ、富士見町のことは富士見町につなぐ、そのようなコーディネーター役を窓口でやってもらう。将来的には、仕事の紹介をきちんとできるような形にしていきたい。諏訪地域のワンストップの窓口で、そこからいろいろなものが展開できるような窓口を作っていきたい。

(B委員)

その窓口は、宅建協会に相談員が常駐するのか。

(事務局)

現在、協議中。どこにどのような人を配置するのか、これから詳細を詰めることになる。

(B委員)

移住がかなり重要になると思う。相談員が誰になるのか、どこにいるのかということが広域で考えると問題になると思う。

(金子会長)

ものづくりについて、魅力あるものづくりを表現するために、ただのものづくりでは物足りないのではないかという話があったが、どうか。

(B委員)

商工会議所もそれに協力していかなければと思っているので、諏訪広域の商工会議所全体で協力するようにしていきたいと思う。

(金子会長)

他に感想、指摘等はあるか。

(C委員)

移住に関しての相談窓口をワンストップでというが、ワンストップになっていないのではないか。そこに相談に来た人について、諏訪市の話は諏訪市につなぐという説明だったと思うが、それはワンストップではない。子育て、雇用、住む場所など全てに対応できてワンストップではないかと思う。子育てをしている立場からすると、働くことも子どもを育てることも住むことも全て一緒である。だから一か所で聞きたいという思いはあると思う。

(金子会長)

その意見に関してはこれから具体的に詰めていく。圏域全体を捉えてどんな仕事や住宅があるか、子育てや生活環境はこんな状況であるということを説明できるような総合窓口をつくらうとしているので、今の意見を組み込んでいくように、これからの議論の中に加えさせていただく。

総合戦略策定にあたっての基本コンセプトを示させていただいた。コンセプトというのは概念、根底に流れる共通思考としての基本的な土台をここに置きたいということで、資料

No.1 を説明した。まず、基本コンセプトについての感想、意見をいただきたい。

(A 委員)

ものづくりの部分で、ドイツが Industry4.0 というものを提唱している、マシンが全てネットワークにつながり、工場が連動して柔軟に動く、ネットワーク時代の新しいものづくりである。また、アメリカなどで始動している IoT (Internet of Things)。これまでインターネットは人と人をつなぐコミュニケーションツールと見なされていたものが、そうではなく、ものつなぐテクノロジーという理解のもとで、いろいろなビッグデータを解析して活用するようになっている。ものづくりと言うと、油まみれが悪いわけではないが、どうしても昔ながらの古いイメージを連想してしまうかと思う。これから若者がそうした世界や新しいテクノロジーにチャレンジできるようなものづくりが連想できるようなキャッチフレーズが良いのではないか。

(金子会長)

まだ確定するわけではないので、引き続きそのことについては良いアイデアがあれば事務局へ提案を寄せていただきたい。その他の視点でどうか。

(D 委員)

私ぐらいの年齢の人達が考えると、ものづくりと言うと必ず工場に行って、作業着を着てというイメージを持つ。それが、ずっと長い間、何十年も戦中戦後も含めてものづくりという言葉で一括りにされてきている。ただ、イメージとして諏訪市は、もっとハイテクで世界に通用するというような自信を持っている。概念ということになると、なかなかものづくりという言葉だけでは、若者が帰ってくる、次の世代を担っていく取組に対して、生産・製造を含めてイメージ的に大変古いという感じはする。やはり油とかそういう感じを持たせないような言葉が良いと思う。

(金子会長)

女性の感性ではどうか。

(E 委員)

ものづくりプラスアルファの部分は思いつかないので申し訳ないが、この基本コンセプトを見てみると、一之柱、二之柱、三之柱、四之柱と、柱にちなんでとても見やすく分かりやすいと思う。一之柱から四之柱も、しごと・ひと・まちという順番であり、位置付けも良いと思う。

(金子会長)

F 委員はどうか。

(F 委員)

確かにものづくりという古いイメージがある。岡谷市は「スマートデバイスのまち」と言っているが、スマートデバイス自体を理解している人は少ない。一般の市民には何を言っているか分からないと思う。先端的なことも言いながら、日本語できちんと説明できるような標語にしないといけない。「スマートデバイスのまち岡谷」と言っても「何だそれ」ということになるので、注釈を付けたほうが良いと思う。

(金子会長)

G 委員はどうか。

(G 委員)

基本的なコンセプトの大枠は素晴らしいと思っている。私たちが先日、講演会を開いたときに、内閣官房の山崎地方創生総括官がおっしゃっていたのは、「地方に魅力あるしごとが必要だ」ということ。「魅力あるしごと」とは何かというのが問題として出てくるのではないか。SUWA ブランドは、ものづくりというものが最終的に完成したものを指すのか、あるいはそ

の会社のスタイルを指すのかが肝になってくると思う。新しいものをつくることは大事だと思うが、そこで働く人達のスタイルも一つのブランドになるのかなという意味では、「魅力あるしごと」という考え方の広さをどこまでやるかがこれから鍵になると感じた。

(金子会長)

H 委員はどうか。

(H 委員)

ものづくりというと工場というイメージがある。例えば、ものづくりではなくて、諏訪市は観光、環境も良い。そういった技術を持っている人もいる。そういう諏訪市の特色を生かしてと考えたときに、例えば、健康というテーマがあったとして、技術の方でも医療への特化を目指すというのはどうか。諏訪市は、地盤が緩いところであり精密加工が難しいという話を聞いたことがあるが、技術の部分で医療に特化できるのでは。そこに合わせて諏訪市に泊ってもらい、しばらくここに住んで療養する。地域でつなげるのであれば、地域の良さというものを活かしていく中で、住んでいながら療養してもらおうとか、食の方では地域の美味しいものを食べていただけるというようなものはどうか。健康というテーマであれば、全部がそこに向けて技術だとかサービスなどを集中できると思う。そのような一つテーマになるものがものづくりとなったときに、自分の中では連想できない。

(金子会長)

例えば「未来を拓く技術の集積でひとづくり」というような、もう少し包括的にサービス業だとか健康などが取り込めるようなイメージということか。I 委員はどうか。

(I 委員)

私はここに住んでいない者なので、そういった視点で話をしたい。諏訪地方観光連盟と国際の VJ (Visit Japan) 事業を行ったことがあるが、そのときに初めて、ここ諏訪市は「東洋のスイス」だと聞いた。空気がきれいで観光が発達して、空気がきれいだから精密機械がつかれるという話を聞いた。そのときに、スイスのイメージが思い浮かび、そのようなイメージがあると住んでみたいと思うのではないか。長野県は、全国で一番住みたいと思われている県であり、私も 2 年前までは住んでいたが、本当に長野県は住みやすかった。福島県で生まれて新潟県に移住して新潟で生活しているが、長野県はいろんな意味で住みやすい。人も良いし、環境も良いし、観光もたくさんあって、素材はすごく良いと思うし、日本の中心でもある。「東洋のスイス」という言葉は、先程も話があったが、健康みたいな感じに女性は魅かれるので、スイスと言われると住んでみたいと思う。

ものづくりの話で、少し視点は違うが、新潟県三条市は、職人が包丁やナイフをつくっている。値段は高価だが、実際にものづくりの現場に行くと、職人が神経を注いでつくっているとみると買いたくなる。職人のところでしか売っていないものもある。20~30 万円するようでも欲しいと思う。イメージが植え付けられると、その地域の特色を感じるために、また行ってみたいと感じる。諏訪市も油というイメージではないものづくりに、もっと清いというかスイスのようなイメージであれば、また来てみたいと思うのではないか。

(金子会長)

この最後のキャッチフレーズのものづくりという言葉、あるいは途中で出てくるものづくりという言葉、もう少しブラッシュアップするということを課題として捉えていきたい。

(D 委員)

ものづくりという言葉が古いイメージを連想する。ただ、諏訪地方というのは、伝統文化を大事にしているので、そこから出てくる言葉にもものづくりもあると思う。だから、邪険に扱うという意味ではなくて、伝統文化を前提に置きながらものづくりを考える。日本の伝統文化、地域の伝統文化、固有の文化というようなもの、そのような考えであれば諏訪市らし

いと思う。

(A 委員)

資料 No.1 の諏訪圏工業メッセだが、この地域を代表するものづくりで集客に成功している。これを諏訪市に置き換えて、諏訪市がものづくりで集客に結び付けるには何が必要なのか。この文章でいくと、広域連携が一つある。諏訪市だけでなく 6 市町村、さらに 6 市町村を超えた産学官連携がキーワードとなる。もう一つは海外を含めた海外発信である。グローバルとのつながりがなければ、諏訪圏工業メッセも出展者や来場者が毎年増えるという発展はなかったのではないか。この点をうまく諏訪市に置き換えたときに、ものづくりでどうやって人を呼び込めるのか、キャッチフレーズが出てくると分かりやすいと思った。

(金子会長)

大きな宿題をいただいているが、今のような指摘を受けながら、基本コンセプト（案）について、この四本の御柱になぞらえた基本的な概念について、了承いただけるということによいか。

(異議なしの声)。

(金子会長)

ありがとうございます。次に議論を進めたい。続いて「(2) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について」、事務局から説明をお願いしたい。一之柱から四之柱まで全部一括で説明し、質問等については柱一本ごとに行きたい。

協議事項（2）について、資料 No.2 に沿って事務局から説明があった。

(金子会長)

一之柱から四之柱、一つひとつのテーマに関する意見、発言をいただきたい。最初に一之柱について、感想、指摘等あればお願いしたい。「しごと」関係の部分だが、先程、基本コンセプトの中でいろいろ指摘をいただいた。もう少し詳しく、「Attractive Job」、「Creative city」、「New Value」、あるいはクリエイターというような中身については盛り込んでおり、発展的未來を見据えていきたいというイメージだが、どうか。

(A 委員)

基本的方向の中に、『新たな雇用を創出できる体力を付けるとともに「雇用の質」を高めることで賃金・やりがい・安定を兼ね備えた「魅力的なしごと～Attractive Job～」をつくる』とあるが、「雇用の質」というのは、例えば非正規から正規へということか。それとも、仕事の質、より高度化した技術とか知識特化を必要とする仕事に転換していくというイメージか。

(事務局)

「雇用の質」だが、国の総合戦略にもこの言葉が出てきていて、賃金・やりがい・安定とあるが、相応のお金をもらって自らがやりがいを感じられる仕事という意味での「雇用の質」ということになる。

(A 委員)

確かに、賃金・やりがい・安定につながるという意味で必要なことだと思うが、それが本当に「雇用の質」なのか。非正規社員を正規社員に雇い直そうという話ではないだろうと思うので、ミスリーディングにならないような表現を使ったほうが良いのではないか。

(金子会長)

表現について研究してみたいと思う。

(金子会長)

続いて二之柱をお願いしたい。「住んでよかった」、「住んでみたい」、「戻ってきたい」、と思える「まち」ということで、観光、UIJ ターン、空き家バンク関係、CCRC というような言葉が出てくるが、意見等を伺いたい。

(D 委員)

観光といっても大変広範囲になる。我々も諏訪地方は意外と良い素材があると言っているが、では何かというと、諏訪湖や霧ヶ峰となる。本当に意味が分かっているのか大変心配だ。

諏訪市は「意外と知られている」というが、各地で「諏訪市」と言っても大体 8 割方が分からない。「諏訪湖は分かるでしょう」と言っても、「どこでしたっけ」となる。やはり遠くに離れれば離れるほど分からなくなるといえることがある。我々は分かっているつもりでも、世間の人達がここを知っているかと言うと、分からないといえることがある。そのため、各市町村というよりも、各県あるいは各県の同じような状況にあるところとの連携をもっと強くしていくことが重要だ。また、諏訪市は、伊東市、秦野市、壺崎市と、南の方にばかり友好都市・姉妹都市があり、意外と北の方にはない。諏訪市から出て行って入植をしてそのまちをつくったということもあるので、そのようなところとも多くの接触をしていって諏訪市の魅力の発信につなげていくということが必要かと感じている。北海道などは特にそのように感じている。

(金子会長)

参考にさせていただく。I 委員はどうか。

(I 委員)

諏訪地方ではインバウンド、国の事業と連携して VJ 事業というのをやっていて、タイと台湾ということで集中的に取り組んでいるという話を聞いてきた。そのように戦略を立て、どの国に諏訪市の何を売っていくかというのを念頭に置いて外国人を呼ばなければ、リピーターにはつながらない。今後、国も予算を確保して地方と連携して事業を行うことができるか分からないので、連携できるときはどんどん使ってほしい。内容が良ければ国も一緒にやっという話になっている。それ以外にも国内振興でも補助的な連携があるので、分からないことがあったら問い合わせさせていただきたい。

外国人の関係での Wi-Fi 整備は良い取組である。Wi-Fi 整備は国としても取組をしなければという事項になっているので、諏訪市として Wi-Fi 整備に取り組むというのはとても良いことだと思う。外国人は、最初は団体客受入れの政策であったが、現在は FIT (Foreign Independent Travel) といって個人旅行者をどんどん入れて行こうという政策になってきている。Wi-Fi は、いろいろな環境に対応できる一番のものであるので、Wi-Fi 整備を支援していくというのは長野県が取り組んでいると思うので、引き続きどんどんやっていただければと思った。

(金子委員)

参考にさせていただく。他はどうか。

(B 委員)

先程の「雇用の質」の話聞いていて思い出したことがあったのでお話ししたい。先日、商工会議所と岡谷工業高校の就職指導の先生達と懇談会を行った。その席で「皆さんの学校から進学した人がいたら、必ず地元へ戻って来るように指導してください」というお願いをしたが、進学率がとても下がっているという。その理由は経済的な問題でなくて、今就職すると正規雇用になるということだ。高校を出て正規雇用になりたい、進学してしまうと正規雇用の率がとても下がってしまうので就職したい、親も就職させたいという話があった。移住してきた人達に、我々も非正規雇用ばかり用意するのではなくて、諏訪市に来ると正規雇用

もこんなにありますという体制も必要と思った。

もう一つ、移住あるいは二地域居住という言葉の中で、二地域居住という言葉で思うのは、都会との交通の利便性の問題がどうしても出てくる。「二地域居住をしてください」あるいは「しませんか」ということになると、鉄道あるいは車の交通の利便性の問題が出てくると思うので、そちらの努力もしなければならない。インフラというようなことにもなるし、ソフト面でということにもなると思う。佐久市は、空き家バンクが市の制度として先進的なところで、佐久市に移住してくる人は新幹線で東京に通勤しているという。雇用を用意しなくても移住してくれるという地域である。そういう地域もあるが、諏訪市はそれができないので、やはり雇用が一番先に来て、「雇用の質」を確保するという、質というのはそういう意味もあると思う。

(金子会長)

インフラ整備については、四之柱の部分にも記載があり、参考にさせていただく。それでは三之柱だが、若い世代の「希望」を実現、「ひと」を育てる「まち」の創生というところだが、C委員はどうか。

(C委員)

とても素晴らしいと思う。良いと思うが、昨年度、諏訪市の保育園への入園条件の一つに、ある条件を入れていただいた。その目的は、子育ては仕事であるということを経験市に認めていただいたということが大前提にある。子育ての経験は、いずれ社会に出たときに自分のキャリアとなり、経験が役に立つと思う。そういう意味で0歳から3歳までのお子さんを家でみている方は、それを条件にして保育園に子ども入園させることができるという内容を入れていただいた。しかし、ここに書かれていないということは認めていないということなのかと思った。

今回の会議前、子育て中のお母さんの再就職セミナーを開催した。長野県全域で行っている、一番多い人数が集まった。53名のお母さんが集まったが、昨年度同じことをやったが10人しか集まらなかった。それが今年53名集まったのは、ただ働きに行くのではなく、自分の将来的なことや、非正規雇用とか正規雇用などを考えてから働きに行こうということで、働くことへの意識が上がっているためだと思う。子育てもしてほしいが、育児休業を使って働き続けてほしいという思いもあり、二つの面がある。子育てに専念したい人には、保育園の子育てをしやすい規定を使っていただいて安心して子育てをしてほしい。働き続けたい人には、働き続けられるような支援をする。両方で支援していきたいというのがある。もう少し具体的に話を伺いたいというところもあり、とても良くできていると思うが、付け加えていただきたいという部分もある。

(金子会長)

今後も中身を充実させていくので、参考にさせていただく。E委員はどうか。

(E委員)

私も、子育てが仕事だと認めてくれた諏訪市は、本当に素敵だと思っている。これは諏訪市でしかないことなので、ぜひ載せてもらいたいと思う。いろいろな市町村に、「子育てを仕事として認めて保育園に預けられる」と自慢して発信しているが、ぜひ総合戦略でも発信していただきたい。

私は子育てしたい派だったので、一度仕事を辞めた。下の子が3歳になるまでみて、保育園に預けて仕事を探したが、次の再就職先は自分が老いるまで先のことを考えた。子育てしながらの就職活動も大変だったし、働きながら子育てをするのはすごくエネルギーが必要だった。病児病後児保育があるのでありがたいと思うが、それが雇用時間に合っていないため、結局仕事を途中で止めて帰って来なければいけないという現状もあった。働きながらも子



育てできるというところを充実していただきたい。

(金子会長)

参考にさせていただく。男性のG委員はどうか。

(G委員)

私も子どもが3人いるが、妻が就職するときに一番困ったのは、良い時間の仕事がないことだった。保育園に預けて、終わって迎えに行くと9時~15時とか10時~15時になってしまうが、そのような時間帯に合う仕事がなかったので非常に困っていた。子育てと仕事は切っても切り離せない関係と思っているので、企業が受け入れられるような体制を整えているとか、このような面でのサポートがあると、女性も再び社会に復帰するときに役に立つのではないか。

(金子会長)

それでは、次に四之柱をお願いしたい。誰もが安全・安心・安定して暮らせる、個性が輝く「まち」の創生ということだが、基本的なまちの環境整備ということ、安全・安心なまちづくりということ、介護・医療という言葉が入っているがどうか。

(F委員)

特段、問題点はないと思う。諏訪地域で一番大きい諏訪赤十字病院があり、6市町村の中でも病院の数は相当多い方だと思うので、アピールポイントになる。

(金子会長)

H委員はどうか。

(H委員)

内容的には問題ないと思う。ここは別の分野かもしれないが、スポーツ関係で諏訪市はとても環境が良い。先日も諏訪湖マラソンがあったが、スポーツ施設の充実施策、例えば、合宿なども含めてスポーツ関係がどこかに入ると良いと思う。

(金子会長)

四之柱に健康づくりに関する取組があり、すわっこランドがある。諏訪湖周のウォーキングと自転車道について、県と市と町が協力して繋がったルートを整備するという取組を始めている。これについても書き加えてアピールしたい。

(H委員)

もちろん住んでいる人もだが、外から来て諏訪市でスポーツをする人も関係する。例えば、若い人達が楽しむスケートボードや自転車などのスポーツがあり、先日のスワンアスロンは諏訪湖を使って行われている。若い人達がスポーツなどを楽しみながら諏訪市の環境とマッチしてくれば良いと思う。諏訪市の環境をもっと活かしたスポーツ施設について加えてもらえれば嬉しい。

(金子会長)

良い指摘をいただいた。諏訪湖からボートではオリンピック選手が出ている。また、ヨットはジュニア選手権大会をおそらく全国で一番沢山開催してきた。霧ヶ峰は、お年寄りと子どもに適した初心者でも気軽にできるスポーツエリアで、高地トレーニングも可能であるので、健康づくりや体力増進という面でもアピールできるかもしれない。

それでは、時間もだいぶ迫ってきたので、全体を通じて気付いた点など意見をいただきたい。

(F委員)

基本テーマが「ものづくり」で「ひとづくり」ということで、ものづくりにかなり焦点を当てた計画となっている。ものづくりが油臭いとか新しいなど、いろいろ議論したが、一之柱から四之柱を見ると、一之柱でも「ものづくり」が観光と同じ分量で、「ひとづくり」に関

しては「相手意識に立つものづくり科」という項目しか入っていない。基本テーマで「ものづくり」で「ひとづくり」と大きく掲げているが、中身に入っていくと関連性が見えない。特に「ひとづくり」に関しても見えなくなっているのも、もし一から四までの柱を活かすのであれば、このスローガンを変えたほうが良いのではと感じている。スローガンと中身との関連性が薄いようなイメージを持っている。

(金子会長)

中身を見て瞬間的にイメージすると、どんな言葉が良いか。

(F 委員)

このテーマに沿えば、一之柱で「ものづくり」だけ 10 ページで、あとのところは量を減らしておけば良いと思う。例えば、工業振興の内容をより厚くすればこのスローガンに合ってくるかと思う。分量的にあまり変わらないというのが率直な感想だ。

(金子会長)

この後、国の支援策などが出てきたときに受け皿を用意しておきたいという意図もある。だから総花的と言われれば総花的だが、取りこぼさなさないようにしたい。そのような意図も背景にある。しかし、力の入れ所にメリハリがあったほうが良いということで、一之柱から順番に強弱を付けていると捉えていただければありがたい。

(A 委員)

魅力的なしごとづくりと絡めて、一之柱の中でクリエイティブ人材の育成とか、新たな価値の創造、稼ぐ力の向上、これらの取組が魅力的な仕事づくりと連携してくるような事業など、見せ方の工夫ができればもう少し充実するのでは。

(金子会長)

I 委員はどうか。

(I 委員)

一番は諏訪市の人が幸せに暮らすことができるかということ。他から人が来ても幸せに暮らすことができる。基本概念さえずれていなければ良いのでは。ただ、取りこぼさないよという意味も分かる。

四之柱に「東海地震・東南海地震による被害が懸念され、液状化現象が発生する可能性が高い地域です」と記載がある。これはマイナスイメージだが、敢えて載せた方が良いのか。

(金子会長)

表現については研究したいと思うが、現実的にインターネットなどでアクセスすれば災害想定を知ることができる。その地域がどのような地域かしっかり把握した上で、いざ災害が起こったときの救援策、きちんとレスキューができるという信頼性を高めないといけない。また、隠してもいけない。そこで、災害が起きても命は守られるという地域コミュニティ力を充実させる施策を展開しているという理解につながれば良いと考え、敢えて入れている。表現についてはもう少し検討してみたい。

(I 委員)

福島県は、地震があっても何か起きると言われている地域でもなかったが、東日本大震災による被害を受けてしまった。敢えてマイナスイメージを出して、諏訪地域がイメージダウンしない方向性なら良いと思う。

(金子会長)

「災害に強いまちづくりを推進します」という記載のみにするなど、研究したい。

(D 委員)

ものづくりについて、油臭いという話をしたが、諏訪市の実態を考えるとものづくりという言葉に代わる言葉があれば良いが、ものづくりが中心になるということは間違いのないと思

う。諏訪市は圧倒的に中小企業が多い中で、女性が子育てをしながら、そして家事をしながら生活をして仕事をしてということへの取組をする企業は多くはない。大きな会社は、子育て支援が一つの企業ブランドになるので取り組んでいるが、中小企業では現実的には難しい。また、労働組合でも協定には一応それらしいものが入ってはいるが、実際主張するという事になると二の足を踏んでしまうというような状況がある。仕事の質や量という部分もあるが、実態として理解しておかなければならないと思う。

三之柱における結婚支援の問題になると、前回会議でも話をしたが、出会いの場を提供しても出会える人達というのは本当に数パーセントである。一つのイベントとして開催をしている色彩が強くて、本当に二人をうまくセッティングさせてというところまでは行っていないのが現状である。私の周りに、昔のようなおせっかいおばさんのような人達が何人かいる。65歳くらいまで仕事をしてリタイアして、5~6人のネットワークになっていて、「あの人どう、この人どう」ということをしているグループがいくつかある。そのような人達のネットワークを使った方が、個々の引き合わせについては効果があるのではないかと。言っただけでいいこと、してはいけないことをよく分かっている人達が、真剣に取り組んでいる。おそらく諏訪市にもこのような人達がいると思う。そういうネットワークを使うと、イベントをやっても、ただ3,000円、4,000円をもらっての、一過性の出会いイベントみたいなものではなく、何かできるのではないかと。出会いの場を設定するという事は、我が社においても2、3年やっていたが、なかなか実を結ばず、この頃は下火になってきている。そういうネットワークを活用しグループをつくるというのは面白い発想ではないか。

(金子会長)

様々な視点から貴重な意見をいただいた。素案だが、総合戦略の四つの柱のまとまりで、いただいた意見、タイトル、中身の補充、事業の加筆、中身とタイトルとの整合性、このようなことについてもう一回練っていきたいと思う。皆さんからも継続的に良いアイデアがあれば、その場ですぐ書き留めていただき、私どもにフォローしていただければ大変助かる。素案について、この方向性でまとめ、内容を充実していくということでご承認いただけたらありがたい。

(A 委員)

四之柱の部分だが、公共施設インフラの部分で水道に関しては話があるが、エネルギーに関しては触れられていない。エネルギーの効率的利用とかスマートシティの実現に向けた取組など、6市町村単独ではあまり意味をなさなくなってくるので広域になるかと思うが、エネルギーに対する取組がこちらに入るかと思うが、どうか。

(金子会長)

入れることは可能だと思うが、事務局どうか。

(事務局)

エネルギー関係について指摘のとおりなので、どこに入れられるか研究したい。諏訪市でもエネルギー関係の取組は進めている。熱利用などいろいろな形で新しい取組をしているので、書き込むようにしたい。

(金子会長)

温泉熱、地下熱のエネルギー交換など、美術館で試行しているので、取り込めるように見直したい。まだ他にもあろうかと思うが、今日のところは時間が迫ってきたので、今までの議論を含めて、一之柱から四之柱の素案をご了解いただき、この方向で進めて良いか承認をいただきたい。

(異議なしの声)

(金子会長)

ありがとうございます。何かあればいつでも結構なのでまた指摘いただきたい。様々な意見をいただき感謝申し上げます。以上で協議事項、意見交換を終了する。それでは、副会長に総括で意見をいただきたい。

(藤沢副会長)

先程、人と人との結び付きについて話があったが、ものづくりの部分で、諏訪市には素晴らしいものを作れる会社が沢山あるが、自分達自身が何に使ったら良いか分からないと言っている。私も最近ファブレス企業を諏訪市に持ってきて、ものづくりは諏訪市の企業にやってもらうというような取組を始めたところ。工場を誘致してくるといったとき、諏訪市にはもう工業適地がほとんど残っていないという中で、ファブレス企業をどうやって持ってくるかが重要になる。工場を持たない企業、ものづくりは自分ではやらないが、設計から事業化をやるという会社でこちらに移ってきている会社はいくつかある。そのようなネットワークづくりを諏訪市役所と一緒に、銀行としても協力していきたいと思っている。

(金子会長)

ありがとうございました。それでは事務局に進行をお願いしたい。

#### 4 その他

次回以降の会議日程と内容について、事務局から説明があった。

#### 5 閉会

(藤沢副会長)

本日は、長時間ありがとうございました。

以上